

関藩年譜 (二)

中村正己

延宝六 戊午

正月廿六日 暁七半時鍛次郎様(一) 御卒去。号猷壽院殿。

正月廿七日 右二付為御卒。上使御門番頭居澤周防守様。

二月四日 御忌御免御中蔵。

六月廿二日 女院様薨去二付、四月廿八日以御使番古川兵左衛門御香尊御進献。

○七月廿五日 坂田六左衛門殿病二而病死。頓死二付為改安

井源左衛門、船橋八郎右衛門、西川作太夫罷越。

十二月十三日 酒井飛驒守様奥様(二) 御卒去。号春性院殿。

註

(一) 久世廣之の四女「梅」、号は「猷珠院日受」。鍛次郎は誤りか。

(二) 久世廣宣ひろのぶの二女、酒井飛驒守重之の室。

延宝七 己未 御用留図書

三月廿四日 於冬様(三) 御逝去。

五月十二日 殿様(四) 御病氣二付、今日より無御登城。

五月廿二日 御病氣為御尋御半時、但奥之御番頭朽木和泉守

様楯拒上使。

六月七日 右同断。

六月十四日 若殿様(五) 於御坐之間、殿様御病氣被為蒙 上意。

○正月三日 富田外記年寄役被仰付。

○三月七日 後藤文左衛門病死。

四月廿三日 御断上使、酒井壱岐守忠慶様御同役。

(朱書) 右両御使御肴御菓子御拝領。

六月廿一日 内田出羽守様奥様(六) 御卒去。号聞妙院殿。

六月廿五日 殿様御逝去。御歳七十一。御病中被御守三度上

使御老中稲葉美濃守様御城。上意之趣仰渡。

同月廿九日 上使御若年寄堀田備中守正俊様ヲ以御香典銀

式百枚(朱書) △白銀二十両ト有之。御拝領。

同月同日 右銀式百枚内、百枚本妙寺へ御納。御使木村正右

衛門正純。

八月六日 於酒井雅楽頭忠清様御宅御老中御列座御家督無

相違被蒙 仰。且新田三千石依御領並久世平九郎様(七) 江

御分地被蒙 仰。

同月十九日 御家督之御禮被仰上之御時服拾貫、金二十兩平

九郎様御分地之御礼貫金二枚御献上。同日先殿様御遺物御刀

利 ■當尉代金三十五枚折紙。無名式尺五寸三州物後藤宗乘代

金式枚御祭壺時雨館林様江御掛物一幅鶴僚秋江筆甲府様江

同一幅鶴僚濟易■田御筆
右之通御献上。

同月同日 加藤求馬之助盛證、下河辺次郎太夫行茂、富田外
記定常被召連以銀馬代 御目見。

同月廿六日 雁ノ間御詰二蒙 仰。

九月十三日 御奏者番被蒙 仰。

同月十五日 以御太刀銀馬代右御礼被仰上之。

○四月十七日 御祈禱所昌福寺類焼二付松平様より三千兩
被下。

十月十二日 御家督御祝御老中様方、其外役人様方御招請。
同月廿六日 於御座ノ間ノ大蔵五幅御拝領。
十一月廿三日 御■ノ■御拝領。

註

(三) 久世重之の長女、号は「速成院妙實」。享年三歳。

(四) 久世廣之。

(五) 久世重之。

(六) 久世廣之の四女、名は「千代」。内田出羽守正廣の室

(七) 久世廣之の弟。

延宝八 庚申

○正月二日 御城下町人共御祝へ罷出。御領分名主、組頭、
年寄宅へ罷出。

○同月十二日 世喜宿御家中之女、其外領内之女御関所被遊
候儀、行先新兵衛方被 届有之候、但從江戸・関宿へ初而
差越候の女ハ以直判之手形可遣之也。(八)

延宝七年九月廿二日

出雲

右之通、江戸より参候間、御関所へ新立候始二者、渡瀬武
太夫ニ相談之。

○正月十四日 去年落髮之面々中剃仕候儀、願之通仰出。

○同月 御神主堂潰達被成候付、平井太兵衛可差遣有申来。

三月九日 公家衆増上寺御参詣二付御固。

○四月十四日 午下刻西海惣左衛門惣領源之丞、高橋五郎兵
衛甥新八、納谷冲構之内にて及刀傷、源之丞十一ヶ所手傷
即死、新八三ヶ所手傷候依之花井嘉兵衛、丹羽十郎右衛門

御目付二人新八方へ罷越着趣相尋候義、新八儀在郷より参
り達、色々源之丞■仰付、堪忍致儀打果由致、五郎兵衛

依願御預、翌日御定之通新八切腹被仰付候間、江戸町より
酉ノ刻二申来り、山口与惣、渡瀬武太夫檢使差遣成刻新八

切腹。

五月八日 家綱公御他界。十四日上野江御入棺。
同月十七日 右御法事二付、経堂前御固遠山大膳、亮幸刑様

御兩人ニ而御務、此方御宿坊成照院惣御奉行大久保加賀守忠
朝様。

六月十四日 御法事相済。殿様御帰棺。

○七月卅日 去ル、廿五日洪水之節、勝手働き候者、江戸注
進依御満悦思召、御直筆之御書被成下有之候申渡。

○十月廿七日 火事之定書御家中被申渡。

九月十一日 西丸下御預邸被差上。

十一月廿二日 奥様御安産織部様(九)御出生。

○十二月七日 大森万右衛門私用にて出府願儀旨二付、藤馬
相果候二付渡瀬武太夫差遂吟味候処弥無之二付、死骸受取
罷帰候。

註

(八) 関宿関所女通行手形を定める。久世出雲守重之。

(九) 久世重之の二女。

天和元 辛酉 九月廿九日改元。

三月十一日 二ノ丸為御番被蒙 仰。

○四月四日 右二付、番頭耆人、使役耆人、給人拾人、足輕

百三人、中間百人差越候様申来。

四月六日 関宿御城米二千石之内、御上納。
四月七日 巖有院様(十)御佛殿へ右燈籠二御献上。
四月八日 日光、廿日之御名代被蒙 仰。(十一)
四月十七日 御発籠御共木村正右衛門正純、下河辺左兵衛行茂

木村正右衛門、下河辺左兵衛上下拾五人 以上。
御宿割

田邊太左衛門上下四人、其外御供館利左衛門、小嶋弥兵衛上下六人ツツ、橋爪新八郎十下五人、亀井■十郎上下四人、田中新助上下三人、三溝十郎兵衛、今泉源八郎、浅井傳八郎、大久保弥左衛門、川北儀兵衛、由紀嘉兵衛、植松三右衛門、菅野傳六、柳原次郎右衛門、由龍見喜八郎、石渡清右衛門。

- 一 御馬式正六人。
- 一 御弓遣師式人。
- 一 御持筒二丁。足軽三人。
- 一 御持鎧式本。
- 一 長身朱柄壺本六人。
- 一 御長刀一振。
- 一 御挾箱四。
- 一 御具足一領。
- 一 笠一。
- 一 御釜弁当。
- 一 御長持式棹。
- 御小袖事。

一 御長持壺棹。諸色御用。

同月廿二日 御帰府。廿四日御目見。

六月十四日 新堀御蔵邸御用二付被差上。

同月廿九日 御年譜二ハ廿八日トアリ。

御系譜徴之松平越後守様御家中出入御裁許相濟、先殿様御取

扱被成御役柄不似合様ニ思召旨依之御遠慮被蒙 仰。酒井河内守殿ニも御同様御遠慮。

○六月晦日 江戸より高嶋清助相越。右之趣申渡。

一 御遠慮之内御関所猶以入念相勤候様申渡。

一 御城中之御門常々通被致候ニ町等へ罷出不作法無之申

付由、之先無油断御門之義、江戸町江臺町江も大門たて

■斗■候様申付出入停止無據節ハ番所へ相断候様申渡、

御家中失火之元足軽目付相廻シ。

一 会所寄合「虫損」用勘定以下隠密ニ可致候事。

一 御領「虫損」町人、百姓、地頭へ罷出候儀、無用六才之節

も返り申付。

一 総而、御家中より江戸へ差遣、何方へも飛脚差越候儀、

無用御関所ニても飛脚惣以候ハバ為可申差出、求馬助方

へ断候ハバ、格別故而也候。

一 御家中之面々願書差出間敷候。

一 御手船往来船印斗取町船之儀被致差置候事。

一 御領分於寺社人集無用 ■中 ■儀も無用候事。

一 武芸之稽古も相止候。

一 惣風呂焼之内停止。

一 御修復并御家中在々迄普請無用事。

一 江戸飛脚罷越候事。急御用ハ大形之儀ハ無用ニ仕、急御

用有之節ハ長谷川藤九郎殿邸より次郎太夫方へ正右衛門

方迄ニ可差出候事。

右之趣次席へ申渡、尤御家中之面々私宅迄伺御機嫌罷越

候事も ■■ 老人、式人ツツ取集届之宿ニ居火之元大切ニ

仕。其外万事隱便致候様申渡候事。

十一月廿七日 秋元撰津守喬知様御同道於大久保加賀守様

御宅御遠慮御免御奉候、先番も御免被 蒙仰。

註

(十) 徳川家綱。

(十一) 日光社参。

天和二 壬戌

正月廿二日 織部様御髮置。

正月十一日 御鏡開。御登城御座候上相延候、此段江府へ申遣。御用留二有之。

○二月十日 高木銀助病死二付、江戸菩提寺被置旨、弥左衛門願二付死骸二差添江戸へ罷越。

○正月十四日 下河辺次郎太夫病死。

三月廿八日 再雁ノ間詰被蒙。

四月二日 麴町八丁目戸田山城守様(十二) 御領邸御拝領五千六百九十九坪余。同十二日御徒。(十三)

同月十五日 西丸下御邸稻葉石見守様御引渡。(十四)

五月廿五日 御年譜二ハ廿四日トアリ新田嶋御邸依四郡被差上。伊藤半左衛門様へ御引渡。

四月廿六日 以御留守居衆御奉書半藏口。御門番御相番渡辺備中守基綱様。

○四月廿六日 御■候二付、御家中之面々大小不残三ヶ年之内物成差上儀旨、惣月番ヲ以正月廿四日ニ奉願候、其節

八郎左衛門、武太夫ヲ以申上候処、御満悦思召候然共、色々御万■取極候上、先今度ハ御受納取極間敷旨申来、御家中へ申渡。

○四月廿二日 小善理兵衛方より失火七軒類焼。理兵衛清信寺へ入寺。

六月七日 二ノ丸火ノ御番御免。

六月廿八日 於土井様御邸奥様半雅於勝様御生。

○右有之節、羽織、羅紗ニ而仕候儀御法度被仰付出候、自分■差支候様被仰出是度先より江戸へ差置候、中間倉持

善吉候事。堅無用可御城中近辺ハ不苦候少も遠方へ御停止被差出候。

十二月廿八日 新堀本所両御下邸類焼。本所より失火。

○十一月三日 瀧川頼母年寄役被仰付。

註

(十二) 戸田山城守忠昌。

(十三) 関宿藩主久世家の江戸中屋敷へ移り替え。

(十四) 稻葉石見守正休。

天和三 癸亥 御用留欠本。

五月日 御城米千石並出石四十七石壺斗四升式合七夕御詰辰。

閏五月十九日 依御願本庄御邸被差上。

六月十七日 御母方御祖母戸田三郎左衛門様奥様卒去。

八月廿一日 備中国庭瀬江御所替被蒙 仰。堀田筑前守様、牧野備後守様御別座被 仰渡。

九月七日右御礼被仰上黄金馬代、御時服五被献。(十五)

十月二日 関宿御城牧野備後守様(十六) 衆引渡。御目付赤井五郎治様、安藤傳十郎様、御越加藤求馬助相勤之牧野様衆、

牧野四郎右衛門、川端権右衛門。十月十日備中庭瀬御領地御書出御頂戴。

御書出し写。

高五万石 加夜^{マヤ} ○都字 ○窪屋 浅口 ○小田

○後同右之通り壺枚紙御認有之。十一月七日 久世平九郎様三千石御蔵米二御直被仰候旨於、菊ノ間被仰渡。

同月廿七日 御年譜二廿九日。半藏御門番御免御留守居方以御奉書申来候様、片桐主膳正殿十二月六日、庭瀬請取御引渡

大坂御在番大御番遠山主殿頭様御組頭朝比奈五郎太夫様御代官都筑岡右衛門御越。

註

(十五) 藩主久世重之が備中国庭瀬藩(現岡山市庭瀬)へ転

封する。石高五万石。
(十六) 久世重之の転封後、藩主に家綱の側衆牧野備後守成
貞が入封する。石高五万三千石。

貞享元 申午 二月廿一日改元前二付。

正月四日 織部様御着袴。

○二月十六日 御持筒組式組新規被仰付、御近習頭小嶋弥兵衛、徳田治右衛門兼帯小頭二拾式人。

○四月十九日 御先手組一組六人死滅。小頭共十五人組二成。

○四月廿七日 御小勝手二付、御一同様方御相談の上、御家中新兵衛無役之者四拾七人御暇被下。

○四月廿八日 御家中式百石以上五百石迄三分一、百石以上式百石以上四分一、米四十俵より百石迄五分一、百拾俵より三拾九俵迄六分一、其外扶持方金請取。

右割合斗以去亥年物成御借用。(十七)

四月廿八日 御病氣二付、百日餘御引込二付、御出勤御病氣之御礼箸肴献上。

十一月七日 松平修理亮様御領地被召上、保科肥後守様江御預、御息団之助様、小三郎様ハ松平日向守様へ御預依之御伺之上後遠慮。御年譜御系譜二八十一日トアリ。十四日トアリ。

此節、松平日向守様御在所下総古河。

同月九日 織部様御逝去(十八)。御■二方松平日向守様へ御預八十一日トアリ。

十二月廿四日 御遠慮御免於阿部豊後守様御宅。

註

(十七) 関宿藩家中御定書。

(十八) 久世重之の二女。

貞享二 己丑

三月朔日 庭瀬御領地御朱印於御前御頂戴。御朱印二八貞享

元九月二十一日トアリ。御添目錄、色紙無之。

五月朔日 公家衆上野御參詣御固。

九月十四日 再御奏參者番被蒙 仰。

同月廿八日 右御礼以御太刀銀馬代被仰上之。

○十一月六日 以来御近習頭、指物番頭同様評地朱丸被仰付。

○八月十四日 下河辺新右衛門様二付、御役御免。

貞享三 丙寅

正月廿六日 於御座之間丹波山御城地御拝領之。

同月廿八 右御礼被仰上之貫金馬代御時服五。

○二月九日 御先手組十二組以来小頭共廿一人組。

○正月廿九日 龜山清太夫殿御武具役、御勝手向御用佐藤武右衛門、今泉屋七郎右衛門被仰付。

三月十五日 丹波御領地御書出御頂戴。

四月廿四日 公家衆芝江(居力)御參詣被御固。

四月廿五日 公家衆御代大乙御能之御固被蒙 仰。

○二月十六日 御引渡上使御兩人様へ為御祝儀貫金一枚時服二。但染のし目以御使者被有之。

○四月十五日 龜山受取之者足輕共袴着候様申渡。(十九)

○閏三月十五日 龜山受取被遣候面々御料理被下、畢而御條目申渡。

○同月同日 加藤求馬之助、富田外記御料理被下御高拝領之。

○閏三月廿一日 三浦舎人発籠、同廿二日求馬助発籠、同廿三日外記発籠。四月五日於京都所司土岐相模守様江求馬之助參上。今度龜山城受取として家来共召連今日御当地罷越

候二付、御式臺迄參上相模守様御目見被仰遊。年中御献上。

三月 垣松茸 九月 山柿 十月 栗

三月 垣松茸 九月 山柿 十月 栗

四月十一日 龜山御城受取之御引渡、御目付安藤九郎左衛門様、向坂清三郎様御越、加藤求馬之助盛證、富田外記定常相

勤之松平加賀守様衆、岡部九郎兵衛、菅谷半七同月日右御引渡、御目付御兩所江代金三枚之御刀一腰宛被進上。

同月十一日 姫二御在所江御暇御時服五、御羽織一御拝領。

五月十九日御発籠御供木村正右衛門正純。

○五月廿日 小嶋清兵衛年寄役被仰付。

六月三日 未ノ刻龜山江御城着御礼使者富田外記定常殿刻出之。

七月九日 奥様御安産富千代様 (二十) 御出生。

六月廿五日 松平国之助様小三郎様御預御免。御系譜二八廿

六日トアリ。

八月廿五日 庭瀬御領分御代官森本惣兵衛殿、豊島権之丞殿へ引渡。

十月廿三日 久世宇右衛門様御病死。

○十二月四日 龜山大十御家中ハ少々類焼。

註

(十九) 久世重之は、丹波国龜山藩 (現京都府龜岡市) へ再転封。

(二十) 久世重之の三女。

(なかむら まさみ 当館展示協力員)